

兼載けんさいの山口訪問は、新しい連歌集のためばかりではありませんでした。兼載は山口からさらに九州へも足をのばして、太宰府だざいふの天満宮てんまんぐうまで行つています。京都の北野きたの天満宮てんまんぐうの会所かいしよ奉行ぶぎやうになつた兼載が、同じ太宰府天満宮にお参りすることも今度の旅の目的の一つだったのです。

いよいよ、新しい連歌集の資料しりょうを集めはじめたのは明応三年めいおう（一四九四年）、宗祇そうぎの山口訪問から五年の月日が過ぎました。

それからだんだんと作品がえらばれていつて、ようやく完成したのは明応四年（一四九五年）九月二十六日のことでした。その間には、句のえらび方をめぐつて、宗祇と兼載が対立たいりつしたこともありました。また、歌集ができあがるころになると、

「今度の歌集にのせられる句には、かたよりがある。中にだいぶえこひいきがあるようだ。」